

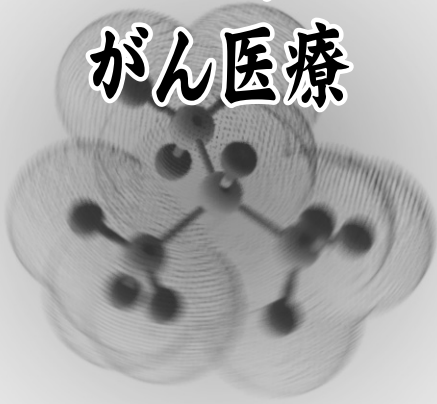


近藤 晴彦(こんどう・はるひこ) 呼吸器外科部長 1981年 東京大学医学部卒業。三井記念病院、東京大学医学部附属病院胸部外科を経て、87年より国立がんセンター中央病院肺外科。2002年より県立静岡がんセンター呼吸器外科部長。専門分野は胸部悪性腫瘍(肺がんや肺転移、縦隔腫瘍など)の外科治療。

身近な病気

肺がんの診断と治療に関しては、肺がんの診断と治療に関する総論的なお話をします。わが国で死亡者数が一番多いがんは、肺がんです。2001年には年間5万6,000人の方が肺がんで亡くなっています。これはがんでの死亡の19%を占め、約15人に1人は肺がんで亡くなっているといわれています。肺がんは非常に身近な病気であることが分かります。

もっと知りたい! がん医療



〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉

放射線とは

放射線治療は1895年のレントゲンによるX線の発見や1898年のキュリー夫妻によるラジウムの発見に端を発し100年以上の歴史を持つ治療法で、今後の役割が大いに期待されます。放射線は空間や物質の中を伝わるエネルギーの一種で、治療に用いられる放射線の種類は、波の性質を持つ電磁波(X線、ガンマ線など)と原子を構成する小さな粒子にエネルギーを与えた粒子線(電子線などの粒子線)には体内の深



西村 哲夫(にしむら・てつお) 放射線治療科部長 1975年 名古屋大学医学部卒業。都立駒込病院放射線治療科、浜松医科大学放射線科勤務を経て2002年より県立静岡がんセンター放射線治療科部長。患者との間に心が通った質の高い放射線治療を目指す。

病気の進み方と診断

肺がんはどのような形で進んでいくのでしょうか。肺の末梢のほうに肺がんのしこりができて、最初はなにも、最初はなにも、そしてその組織型を決めるために、痰の中の細胞を調べたり、気管支ファイバーや外から細い針を刺す針生検を行います。場合によっては手術まで行って、病巣から細胞や組織を取って検査します。

肺がん ～診断と治療～

どの症状が現れます。つまり、症状がある肺がんはかなりの割合で診断されています。また、肺がんは、リンパ節や他の臓器に飛び火(転移)をすることがあります。リンパ節への転移は、肺を溶かしています。これらの検査を通じて、Tは、肺の1フロックを取る肺切除術です。なんらかの原

がん医療の最前線を総合的に学ぶ県立静岡がんセンター公開講座「もっと知りたい!がん医療」(静岡新聞社・静岡放送主催、同センター共催、東京電力、学校法人原学園専門学校 白寿医療学院協賛)の第2回講座が2日、駿東郡長泉町の同町文化センター・ベルフォーレで開催されました。同センターの近藤晴彦呼吸器外科部長が「肺がんの診断と治療」、西村哲夫放射線治療科部長が「最近の放射線治療の進歩」参加型医療を理解するために」をテーマに講演しました。その概要を紹介いたします。

か多い臓器なので、血管の中を流れてがん細胞が入って遠隔転移を起こすことも多々あります。肺がんで転移しやすい臓器は、肺・脳・骨・副腎などです。これら肺がんの進み具合を総合的に判断して分けて病期が判断されます。肺がんを診断する際、まず、本当に肺がんかどうか、そしてその組織型を決めるために、痰の中の細胞を調べたり、気管支ファイバーや外から細い針を刺す針生検を行います。場合によっては手術まで行って、病巣から細胞や組織を取って検査します。

最近脚光を浴びている新しい放射線治療として、陽子線治療があります。この装置は静岡がんセンターにもありますが、基本的には放射線を病巣だけに集中して照射して効果を高めようとする方法です。

喫煙でリスク増大 症状で発見される肺がんは、進行して治すのが困難なことが多いので、症状が出ない段階で見つける上で、検査が非常に大事になります。かつて、アメリカでは、検査は肺がんの死亡率の低下につながらないとの研究結果が報告され、肺がん検診は勧められてきませんでした。しかし、その研究でも検診をした群の方がより早期の肺がんが見つかっていますし、日本からはコホート調査では、肺がん検診は有効だとの報告も出ています。最近、アメリカではコンピュータ断層写真(CT)による検診が研究されています。

禁煙率が高くなるにつれて、喫煙による肺がんの死亡率は減少する傾向があります。禁煙率が高くなるにつれて、喫煙による肺がんの死亡率は減少する傾向があります。禁煙率が高くなるにつれて、喫煙による肺がんの死亡率は減少する傾向があります。

部で最も放射線が強く照射される性質があり、線量を深部に集中できる優れた特徴があります。ガンマ線などを出す小さな放射線物質を病巣に直接挿入する密封小線源治療は組織内照射や腔内照射と呼ばれる方法です。

近年のテクノロジーの進歩により外照射の治療技術も精度が向上し、有効な方法が次々と開発されています。コが、これらの治療技術により、密封小線源治療で、遠隔操作で病巣に送り込

可能になりました。静岡がんセンターで行っている陽子線治療も、陽子線が本来持つ放射線が深部に集中する性質により、密封小線源治療よりも、1年間に約12万人の患者さんが新しく放射線治療を受けました。これは日本で新

放射線治療の目的は、治療を指す根治的な治療法と、患者さんの苦痛を和らげるための緩和治療とに分けられます。放射線治療単独で治療が期待できる代表的な疾患は、早期の頭頸部がん、子宮頸がん、前立腺がんなどです。また、手術と組み合わせることも

放射線治療の目的は、治療を指す根治的な治療法と、患者さんの苦痛を和らげるための緩和治療とに分けられます。放射線治療単独で治療が期待できる代表的な疾患は、早期の頭頸部がん、子宮頸がん、前立腺がんなどです。また、手術と組み合わせることも

負担が少なく、症状緩和治療としてよく用いられます。特に骨転移の痛みを和らげるのに効果があります。このほか、腫瘍による神経、気道、消化管、血管の圧迫による症状を改善させるなど、放射線治療は患者さんのQOL(生活の質)を保つために重要な役割を果たしています。

最近の放射線治療の進歩

参加型医療を理解するために

静岡県立静岡がんセンター 放射線治療科部長 西村 哲夫 氏

放射線治療は1895年のレントゲンによるX線の発見や1898年のキュリー夫妻によるラジウムの発見に端を発し100年以上の歴史を持つ治療法で、今後の役割が大いに期待されます。放射線は空間や物質の中を伝わるエネルギーの一種で、治療に用いられる放射線の種類は、波の性質を持つ電磁波(X線、ガンマ線など)と原子を構成する小さな粒子にエネルギーを与えた粒子線(電子線などの粒子線)には体内の深

放射線治療は1895年のレントゲンによるX線の発見や1898年のキュリー夫妻によるラジウムの発見に端を発し100年以上の歴史を持つ治療法で、今後の役割が大いに期待されます。放射線は空間や物質の中を伝わるエネルギーの一種で、治療に用いられる放射線の種類は、波の性質を持つ電磁波(X線、ガンマ線など)と原子を構成する小さな粒子にエネルギーを与えた粒子線(電子線などの粒子線)には体内の深

質の高い放射線治療が行われるには、よい装置が必要ですがそれだけあっても何もできません。むしろ、治療スタッフのチームワークと病院内や地域の連携の方が重要とも言えます。放射線治療の適応となる患者さんを選択していただくとき、ご依頼をいただいたことには患者さんの治療も始まります。

高まる

治療技術の精度

放射線治療は正常組織の影響を伴う治療です。治療効果を上げるためには、周囲の正常組織を守りながら病巣に必要な線量を的確に投与することが重要で

放射線治療は正常組織の影響を伴う治療です。治療効果を上げるためには、周囲の正常組織を守りながら病巣に必要な線量を的確に投与することが重要で

放射線治療は正常組織の影響を伴う治療です。治療効果を上げるためには、周囲の正常組織を守りながら病巣に必要な線量を的確に投与することが重要で

放射線治療は正常組織の影響を伴う治療です。治療効果を上げるためには、周囲の正常組織を守りながら病巣に必要な線量を的確に投与することが重要で

放射線治療は正常組織の影響を伴う治療です。治療効果を上げるためには、周囲の正常組織を守りながら病巣に必要な線量を的確に投与することが重要で